

小学校における5領域・資質・能力・学習過程 ～高学年教科化から考える～

英語教育改革について

1 小学校高学年における英語教育

2020（平成32）年の新学習指導要領では、中学年の「外国語活動」、高学年の「外国語科」が実施されることが答申で報告されました。（平成28年12月）

2 小学校高学年における英語教育

(1) 領域

高学年「外国語科」では、5領域が次のように位置付けられています。

- 「読むこと」 ……態度の育成
- 「書くこと」 ……態度の育成
- 「聞くこと」 ……基礎の育成
- 「話すこと（発表）」 ……基礎の育成
- 「話すこと（やり取り）」 ……基礎の育成

(2) 資質・能力

附属新潟小学校では、「外国語科」の見方・考え方、資質・能力を次のように位置付けています。

- 「知識・技能」 : 語彙・基本的な英語表現、語順や響きの気付き、運用能力等
- 「思考力・判断力・表現力」 : 目的・場面・状況・相手や相手の反応に着目し、情報（考え含む）や英語を整理・再構築して表現する力
- 「態度」 : 相手や相手の文化や背景を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
- 「協働性」 : 目的や課題に応じて友達と協力したり、助け合ったりしながら情報や英語を調べたり、考えたり、使ったりする力
- 「ツール活用能力」 : 目的や課題に応じて外国語科に適したツールを選択し、有効に使いながら目的達成や課題解決をする力

「見方・考え方」

- ・外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者とのかかわり（反応）から着目すること
- ・目的・場面・状況・相手等に応じて、情報や自分の考えと外国語とを関係付けること

(3) 学習過程

新学習指導要領では、小学校英語教育においても次のよう学習過程が示されています。

- ① 設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解する。
- ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる
- ③ 対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
- ④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

教科化に向けて、私は、次のことを提案します！

1 目指す子どもの姿

相手の反応に対し、必要な情報や英語を考えながら、コミュニケーションを図る子ども

